



Cisco Prime Integration Utility ユーザ ガイド

ソフトウェア リリース 1.11
Cisco Prime

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知られていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Prime Integration Utility 1.11 ユーザ ガイド
Copyright © 2012 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2012, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに iii

対象読者 iii

表記法 iii

製品マニュアル iv

関連資料 iv

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート v

CHAPTER 1

Integration Utility の概要 1-1

製品概要 1-1

Cisco Prime アプリケーションとサードパーティ プラットフォームの統合 1-1

同じマシン上の NMS と Cisco Prime 1-2

異なるマシン上の NMS と Cisco Prime 1-2

CHAPTER 2

Integration Utility のインストール 2-1

ソフトウェア要件 2-1

ハードウェア要件 2-1

サポートされるネットワーク管理システム 2-2

Integration Utility のインストール 2-3

Integration Utility のアンインストール 2-4

CHAPTER 3

Integration Utility の使用 3-1

Integration Utility の開始 3-1

UNIX での Integration Utility の開始 3-2

Windows での Integration Utility の開始 3-2

NMS での Integration Utility の開始 3-3

データ バンドルのダウンロード 3-3

Cisco Prime アプリケーションの NMS への統合 3-5

NMS の更新 3-8

Integration Utility のトラブルシューティング 3-9

INDEX



はじめに

このマニュアルでは、Cisco Prime Integration Utility の概要について説明し、Integration Utility のインストール、統合、および使用の方法を説明します。

対象読者

このマニュアルは、Cisco Prime アプリケーションの設定およびメンテナンスを行い、サードパーティ製のネットワーク管理システムを Cisco Prime アプリケーションと統合する必要があるネットワーク管理者を対象としています。

ネットワーク管理者には、次のスキルが必要です。

- ネットワーク管理の基本的なスキル
- Solaris の基本的なシステム管理者のスキル
- Windows の基本的なシステム管理者のスキル

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

項目	表記法
コマンドおよびキーワード	太字
ユーザが値を指定する変数	イタリック体
セッション情報およびシステム情報の表示出力	screen font
ユーザが入力する情報	boldface screen font
ユーザが入力する変数	<i>italic screen font</i>
本文中のメニュー項目の選択	[Option] > [Network Preferences]
表中のメニュー項目の選択	[Option] > [Network Preferences]



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



警告 「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。

製品マニュアル



(注) 初版発行後、印刷物または電子マニュアルのアップデートを行う場合があります。マニュアルのアップデートについては、Cisco.com で確認してください。

表 1 に、ご利用可能な製品マニュアルを示します。

表 1 製品マニュアル

ドキュメント名	利用できる形式
Cisco Prime Integration Utility 1.11 ユーザガイド (このマニュアル)	<ul style="list-style-type: none"> LMS Documentation CD-ROM に収録されている PDF。 Cisco.com の次の場所で入手可能です。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps11200/products_user_guide_list.html
文脈依存オンライン ヘルプ	文脈依存オンライン ヘルプを表示するには、表示しているページで [Help] をクリックします。

関連資料



(注) 初版発行後、印刷物または電子マニュアルのアップデートを行う場合があります。マニュアルのアップデートについては、Cisco.com で確認してください。

表 2 に、ご利用可能な関連マニュアルを示します。

表 2 関連資料

ドキュメント名	利用できる形式
『Release Notes for Cisco Prime LAN Management Solution 4.2』	<ul style="list-style-type: none"> LMS Documentation CD-ROM に収録されている PDF。 Cisco.com の次の場所で入手可能です。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps11200/prod_release_notes_list.html

表 2 関連資料 (続き)

ドキュメント名	利用できる形式
『 <i>Getting Started with Cisco Prime LAN Management 4.2</i> 』	<ul style="list-style-type: none"> LMS Documentation CD-ROM に収録されている PDF。 Cisco.com の次の場所で入手可能です。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps11200/products_user_guide_list.html
『 <i>Installing and Migrating to Cisco Prime LAN Management Solution 4.2</i> 』	<ul style="list-style-type: none"> 製品に付属の印刷マニュアル。 LMS Documentation CD-ROM に収録されている PDF。 Cisco.com : http://www.cisco.com/en/US/products/ps11200/prod_installation_guides_list.html

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>



CHAPTER 1

Integration Utility の概要

Cisco Prime Integration Utility は、Cisco Prime アプリケーションをサードパーティ製ネットワーク管理システム (NMS) と統合するユーティリティです。

このユーティリティではシスコ デバイスのアイコンをトポロジ マップに追加したり、Cisco MIB で NMS からブラウザできるようにしたり、CiscoView や Device Center などのリモートにインストールされた Cisco Prime アプリケーションを起動するように NMS のメニュー項目を設定したりできます。

この章の内容は、次のとおりです。

- [製品概要](#)
- [Cisco Prime アプリケーションとサードパーティ プラットフォームの統合](#)

製品概要

Integration Utility を使用すると、シスコ デバイスや Cisco Prime アプリケーションを NMS に簡単に統合できます。

Integration Utility の機能は次のとおりです。

- ネットワーク管理統合データ バンドル (NMIDB) の NMS への共通のインストール メカニズム。
- Cisco Prime アプリケーション、アイコン、MIB、およびトラップをサードパーティ NMS に統合する機能。
- アプリケーションでの変更が不要な新しい NMS のサポート。
- Cisco Prime アプリケーションを起動するための NMS からの新しいデバイスのサポート。

Cisco Prime アプリケーションとサードパーティ プラットフォームの統合

Cisco Prime アプリケーション、アイコン、MIB、およびトラップをサードパーティ SNMP 管理プラットフォームに統合できます。プラットフォームに応じて、Integration Utility では次のことを行えます。

- Cisco Prime アプリケーションを起動する。
- Cisco MIB を参照する。
- トラップを統合する。
- シスコ デバイスのアイコンを NMS トポロジ マップに追加します。

また、このユーティリティでは、1 台のサーバ上の Cisco Prime アプリケーションと別のサーバ上の SNMP 管理プラットフォームをリモートで統合できます。



(注)

Integration Utility を実行するには、ルートとして UNIX にログインするか、または Windows の管理権限を持っている必要があります。

Integration Utility は次のタスクを実行します。

- NMIDB は、Cisco.com、ローカル ファイル、あるいは別のシステムから FTP を介してダウンロードされます。
デバイスのサポートを追加する場合、新しい NMIDB がダウンロードされることがあります。Integration Utility が新しいバージョンの NMIDB を検出し、新しいバージョンをインストールするように指示します。
- 各アプリケーションを登録するために、追加の設定情報の入力が必要とされます。
- ローカル ファイルから、または別のシステムから FTP を介してアダプタ スクリプトをダウンロードします。
- アプリケーション、アイコン、MIB、およびトラップを NMS に統合するためのアダプタ スクリプトを実行します。

Integration Utility でアダプタのリストからアダプタ スクリプトを選択できます。また、NMS ベンダーから提供されるアダプタ スクリプトを使用することもできます。

ターゲット NMS がインストールされているのと同じマシンに Integration Utility をインストールする必要があります。次の 2 つの統合シナリオが考えられます。

- 「同じマシン上の NMS と Cisco Prime」(P.1-2)
- 「異なるマシン上の NMS と Cisco Prime」(P.1-2)

同じマシン上の NMS と Cisco Prime

この場合、Integration Utility は、単一の CiscoView インストールの一部として動作します。Integration Utility は必要なすべての情報を Cisco Prime Server から取得できるため、アプリケーション、デバイスのアイコン、MIB、およびトラップが自動的に NMS に統合されます。

NMS が存在しない場合でも、Integration Utility がインストールされます。後で、NMS がインストールされるたびに、[Change Integration Options] を選択してアプリケーションまたはデバイスの情報を NMS に統合します。

Cisco.com からデバイスのサポートを追加する場合、自動的に新しい NMIDB を受信します。必要に応じて、この NMIDB をダウンロードして NMS に統合できます。

異なるマシン上の NMS と Cisco Prime

1 台のマシンに NMS と Integration Utility をインストールし、Cisco Prime を別のマシンにインストールする場合、Integration Utility で Cisco Prime アプリケーションおよびデバイスの情報を SNMP 管理システムに統合するための手順が説明されます。このプロセスで、Integration Utility によって、必要な情報を入力するように求められます。

Change Integration Options を起動して、リモートシステムにインストールされたアプリケーションに固有の情報を表示し、統合を続行することができます。これによって、リモートシステムにインストールされている Cisco Prime アプリケーションが NMS と統合されます。

必要に応じて、NMS から新しい NMIDB をダウンロードできます。NMIDB がすでに NMS と統合されている場合、[NMS] メニューから [Update Cisco Device Support] を選択し、新しい NMIDB をダウンロードします。

(Integration Utility のインストール時または Change Integration Options を使用して) 正しい Cisco.com ユーザ名とパスワードを入力した場合、このユーティリティでは自動的に NMIDB を取得して NMS に統合します。



CHAPTER 2

Integration Utility のインストール

この章では、Cisco Prime Integration Utility のインストールおよびアンインストールを実行するために必要なタスクについて説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- [ソフトウェア要件](#)
- [ハードウェア要件](#)
- [サポートされるネットワーク管理システム](#)
- [Integration Utility のインストール](#)
- [Integration Utility のアンインストール](#)

ソフトウェア要件

次のいずれかのオペレーティング システムを実行する必要があります。

Unix の場合：

- Solaris 10

Windows の場合：

- Windows 2008 Standard Edition Release 1 (SP1 および SP2)
- Windows 2008 Enterprise Edition Release 1 (SP1 および SP2)
- Windows Server 2008 R2 Standard Edition
- Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1



(注)

上記のバージョンの Windows オペレーティング システムでは、64 ビット オペレーティング システムのみサポートされています。

ハードウェア要件

- メモリ (RAM) : 最小 4 GB のメモリと 8 GB のスワップ領域が必要です。スワップ領域が 8 GB 未満の場合、インストールが終了します。
- 必要な領域 : 4096MB (これには NMIDB パッケージを抽出するために必要な領域が含まれます)

サポートされるネットワーク管理システム

表 2-1 に、Integration Utility 1.11 でサポートされるネットワーク管理システム (NMS) を示します。

表 2-1 サポートされるネットワーク管理システム

ネットワーク管理システム	サポートされるプラットフォーム
HP Open View 9.1、9.01、9.0、8.13、8.1	<p>Windows</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2008 R2 Standard x64 Edition Windows 2008 Server Standard Edition Release 1 (SP1 および SP2) Windows 2008 Enterprise Edition Release 1 (SP1 および SP2) Windows Server 2008 R2 Standard Edition Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition <p>(注) 上記のバージョンでは、64 ビット オペレーティング システムのみサポートされています。</p> <p>Solaris</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris 10 <p>これらのプラットフォームでは、ローカルおよびリモート統合がサポートされます。</p> <p>Soft Appliance</p> <p>(注) Soft Appliance については、リモート統合のみサポートされます。</p> <p>HP OpenView と LMS の統合については、HP サイトの『<i>NMmi Deployment Guide</i>』を参照してください。</p>
HP OpenView 7.53、7.51、7.50	<p>Windows :</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2008 Server Standard Edition Release 1 (SP1 および SP2) Windows 2008 Enterprise Edition Release 1 (SP1 および SP2) Windows Server 2008 R2 Standard Edition Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition <p>(注) 上記のバージョンでは、64 ビット オペレーティング システムのみサポートされています。</p> <p>Solaris :</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris 10 <p>上記のプラットフォームについては、リモート統合のみサポートされます。</p>

表 2-1 サポートされるネットワーク管理システム (続き)

ネットワーク管理システム	サポートされるプラットフォーム
NetView 7.1.4、7.1.5	<p>Windows :</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2008 Server Standard Edition Release 1 (SP1 および SP2) Windows 2008 Enterprise Edition Release 1 (SP1 および SP2) Windows Server 2008 R2 Standard Edition Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition <p>(注) 上記のプラットフォームでは、64 ビット オペレーティングシステムのみサポートされています。</p> <p>上記のプラットフォームについては、リモート統合のみサポートされます。</p>

Integration Utility のインストール

Cisco Prime Integration Utility 1.11 は LMS 4.2 の製品 DVD に収録されています。Integration Utility 1.11 はスタンドアロン製品としてシステムにインストールできます。
SystemDrive:\\$disk1¥install¥NMIM¥setup.exe から setup.exe ファイルを実行します。

インストール上の注意事項

Integration Utility のインストールを開始する前に、次のことを確認してください。

- この製品をインストールするには、管理者権限が必要です。
- サードパーティ NMS と同じマシンに Integration Utility をインストールします。

インストール手順

インストールのカスタム モードで Integration Utility をインストールできます。

Integration Utility のインストールの詳細については、『*Installing and Migrating to Cisco Prime LAN Management Solution 4.2*』を参照してください。

インストール時のユーザ入力

Integration Utility のカスタム インストールの最後に、このユーティリティを NMS と統合するように指示されます。

次のいずれかを選択できます。

- [Integrate Now]

または

- [Integrate Later]

[Integrate Now] オプションを選択した場合は、次の情報を入力するように指示されます。

- 統合に使用する NM アダプタ。
- NMS マップから CiscoView に到達する Cisco Prime Server の詳細 (スタンドアロンのみ)
 - Cisco Prime Server 名
 - Port

- プロトコル (HTTP または HTTPS)
- Cisco.com から NMIDB 更新を取得するオプション (Yes または No)
- NMIDB を更新するための Cisco.com のログイン名およびパスワード (オプション)
- Cisco Prime アプリケーションを起動するためのデフォルトのブラウザ パス

これらのフィールドの詳細については、[Cisco Prime アプリケーションの NMS への統合](#)を参照してください。

[Integrate Later] オプションを選択した場合は、Cisco Prime アプリケーションとサードパーティ ネットワーク管理システムの統合を開始するときに、これらの情報を入力する必要があります。

Integration Utility のアンインストール

Integration Utility を他の Cisco Prime アプリケーションと一緒にアンインストールできます。

アンインストールの詳細については、『*Installing and Migrating to Cisco Prime LAN Management Solution 4.2*』を参照してください。



CHAPTER 3

Integration Utility の使用

Cisco Prime Integration Utility では、ネットワーク管理統合データバンドル (NMIDB) をダウンロードし、Cisco Prime アプリケーション、アイコン、MIB、およびトラップをサードパーティ製ネットワーク管理システム (NMS) と統合します。

この章の内容は、次のとおりです。

- [Integration Utility の開始](#)
- [データバンドルのダウンロード](#)
- [Cisco Prime アプリケーションの NMS への統合](#)
- [NMS の更新](#)
- [Integration Utility のトラブルシューティング](#)

Integration Utility の開始

Integration Utility を開始するには、次の手順を実行します。

- Cisco.com で入手できる新しい NMIDB バージョンをダウンロードしてアップグレードします。
- Cisco Prime アプリケーション サーバの場所を変更します。
- 新しいアプリケーションを登録します。
- Cisco Prime アプリケーションを登録する NMS を変更します。
- 新しいベンダーアダプタスクリプトを入手します。

Integration Utility を実行するには、ルートとして UNIX にログインするか、または Windows の管理権限を持っている必要があります。

ここでは、次の内容について説明します。

- [UNIX での Integration Utility の開始](#)
- [Windows での Integration Utility の開始](#)
- [NMS での Integration Utility の開始](#)

UNIX での Integration Utility の開始

UNIX で Integration Utility を開始するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Telnet を使用して、Integration utility がインストールされるシステムへの接続を開きます。
- ステップ 2** root でログインします。
- ステップ 3** `root_installation_directory/bin` ディレクトリに移動します。
オプションを使用せずにこのユーティリティを開始するように計画する場合、DISPLAY 環境変数を設定します。
- ステップ 4** コマンドラインで次のように入力します (表 3-1 のオプションを含む)。
`./nmic.sh`

表 3-1 コマンドラインオプション

コマンドラインオプション	説明
<code>-h</code> または <code>-help</code>	コマンドライン オプションと使用方法を表示します。
<code>-v</code>	Integration Utility のバージョンと NMIDB のバージョンを表示します。
<code>-q</code>	GUI 画面を表示せずに待機モードで実行します。以前にインストールした NMIDB を使用して、以前に設定したアダプタ スクリプトを実行します。
<code>-u</code>	ネットワーク管理システムから統合の情報を削除します。Cisco アプリケーションのメニュー エントリが削除されますが、MIB とアイコンは削除されません。
<code>-q -cco</code>	Cisco.com から最新の NMIDB を入手して、以前に設定したアダプタ スクリプトを実行します。
<code>-q -file</code>	NMIDB ファイルを使用して待機モードで NMIDB をインストールします。NMIDB ファイルへのフル ディレクトリ パスを入力します。 例： <ul style="list-style-type: none"> Windows の場合は、次のように入力します。 <code>-q -file C:\temp\nmidb.xxx</code> <code>xxx</code> は NMIDB のバージョンです。 UNIX の場合は、次のように入力します。 <code>-q -file /tmp/nmidb.xxx</code> <code>xxx</code> は NMIDB のバージョンです。

Windows での Integration Utility の開始

Windows プラットフォームでは、次のいずれかから Integration Utility を開始できます。

- [Start] メニュー
- または
- コマンドライン

[Start] メニューから Integration Utility を開始するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 Windows デスクトップで [Start] をクリックします。
 - ステップ 2 [Programs] > [Cisco Prime] > [Change Integration Options] を選択します。
-

コマンドラインから Integration Utility を開始するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 `root_install_directory\bin` ディレクトリに移動します。
 - ステップ 2 コマンドラインで次のように入力します (表 3-1 のオプションを含む)。
`nmic.exe`
-

NMS での Integration Utility の開始

Integration Utility を NMS と統合する場合、適切なトップレベルのメニューから [Change Integration Options] を選択します。

データバンドルのダウンロード

ネットワーク管理統合データバンドル (NMIDB) には、シスコデバイスをネットワーク管理システム (NMS) に追加するために必要なすべての情報が含まれています。

LAN 管理ソリューション 3.0 に付属の NMIDB バージョンは 1.085 です。

このバンドルは頻繁に更新されるため、Cisco Prime アプリケーションで NMS を使用するには、最新バージョンをインストールする必要があります。

デバイスのサポートをアップグレードする場合、新しい NMIDB がダウンロードされることがあります。Integration Utility が新しいバージョンの NMIDB を検出した場合、新しいバージョンをインストールするように求められます。

最新の NMIDB は、ローカルマシン上のファイル、Cisco.com、または別のシステムから手動で取得することもできます。

Integration Utility がすでに NMS に統合されている場合、[Update Cisco Device Support] メニューからデータバンドルをダウンロードできます。

適切なトップレベルのメニューから [Update Cisco Device Support] を選択します。メニューの位置は、お使いのシステムで CiscoView アプリケーションがインストールされている場所に応じて異なります。新しい NMIDB が自動的に取得され、NMS に統合されます。

Integration Utility を実行するには、ルートとして UNIX にログインするか、または Windows の管理権限を持っている必要があります。

データバンドルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 Integration Utility を開始します。
このユーティリティでは、ソフトウェアセンターによってダウンロードされた新しい (最新の) NMIDB をチェックします。

最新の NMIDB が見つかった場合、このバージョンに更新するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

- 新しい NMIDB をインストールする場合は、[Yes] をクリックします。
- ソフトウェア センターによってダウンロードされた新しい NMIDB を使用しない場合は、[No] をクリックします。

新しい NMIDB をインストールしない場合は、最新バージョンをインストールするまで、Integration Utility を開始するたびに、インストールするかどうか尋ねられます。

新しい NMIDB が検出されなかった場合、または [No] をクリックした場合、表 3-2 から次のオプションのいずれかを選択します。

表 3-2 NMIDB ダウンロード オプション

オプション	目的	入力
File	ローカル マシン上のファイルから NMIDB をインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> • フルディレクトリパスおよび NMIDB ファイル名を入力します。例： <ul style="list-style-type: none"> – Windows の場合は、次のように入力します。 <code>C:\%temp%\nmidb.xxx</code> – UNIX の場合は、次のように入力します。 <code>/tmp/nmidb.xxx</code> <p>xxx は NMIDB のバージョンです。</p> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Browse] をクリックし、NMIDB ファイルを検索します。
Cisco.com	Cisco.com から NMIDB をインストールします。	<p>Cisco.com のユーザ名およびパスワードを入力してください。</p> <p>Cisco.com のログイン特権を持っている必要があります。</p> <p>Cisco.com のユーザアカウントおよびパスワードを持っていない場合は、チャンネルパートナーにお問い合わせください。または、Web サイト (http://www.cisco.com) で申請情報を入力します。</p>
FTP	別のシステムから NMIDB をインストールします。	<p>デバイスのログイン情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム名 • ユーザ名 • ユーザパスワード • フルディレクトリパスと NMIDB ファイル名 (たとえば、<code>/tmp/nmidb.xxx</code>)

ステップ 2 [Get NMIDB] をクリックします。

お使いのシステムにすでにインストールされている NMIDB よりも新しいバージョンである場合、この NMIDB がインストールされます。

ステップ 3 [Next] をクリックします。

このダイアログ ボックスのいずれかのフィールドで変更を行った場合、新しい場所から NMIDB を入手するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- [Yes] をクリックして、新しい NMIDB をインストールします。
お使いのシステムにすでにインストールされている NMIDB よりも新しいバージョンである場合、この NMIDB がインストールされます。
- [No] をクリックすると、変更がキャンセルされます。

[Application Registration] ダイアログボックスが表示されます。統合の詳細については、[Cisco Prime アプリケーションの NMS への統合](#)を参照してください。

Cisco Prime アプリケーションの NMS への統合

[Application Integration] ダイアログ ボックスを使用して、NMS に統合するアプリケーションを選択します。アプリケーションを統合すると、NMS でアイコンまたはメニューからそのアプリケーションを起動できます。

NMS でアプリケーションを登録する前に、このデバイス用のデータ バンドルのダウンロードを完了させる必要があります。

データ バンドルをダウンロードしない場合、Integration Utility はすでにインストールされている NMIDB を使用します。

Cisco Prime アプリケーションを NMS に登録するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 アプリケーションのタブを選択します。

使用可能なアプリケーションごとにタブが 1 つ存在します。新しいデバイス サポートだけのために NMIDB を更新し、アプリケーション登録の変更は必要ではない場合、次の手順をスキップし、[Next] をクリックします。

NMS から起動するデフォルト アプリケーションを指定するには、[Set as default application to be launched from NMS] をオンにします。

一部のネットワーク管理システム アダプタでは、このオプションがサポートされません。

ステップ 2 統合の完了後に NMS マップ上のデバイス アイコンをダブルクリックします。**ステップ 3** 必要に応じて、登録パラメータを変更します。

- Web ベースのアプリケーションを登録するには、次の項目を入力するか選択します。
 - HTTP/HTTPS プロトコル。
 - Cisco Prime Web サーバのホスト名または IP アドレス。
 - Cisco Prime Web サーバのポート番号。
 - 実行可能ファイルをフル パスで参照し、アプリケーションを起動します。
- 別のアプリケーションを登録するには、別のアプリケーションのタブを選択します。

ステップ 4 すべてのアプリケーションの登録プロセスの完了後に、[Next] をクリックします。

アプリケーション登録の更新を行った場合、確認ダイアログ ボックスで変更を保存するか、キャンセルするかを尋ねられます。

- [Yes] をクリックすると変更が保存されます。

- [No] をクリックすると、変更がキャンセルされます。

[Choose Adapters] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [Choose Adapters] ダイアログボックスで、使用可能なアダプタのリストからアダプタを選択します。

Integration Utility のデフォルトで使用可能なアダプタは次のとおりです。

- CA-Unicenter
- HitachiNMMAdapter
- NetView60NTClientAdapter
- NetView60NTServerAdapter
- NetViewNTClientAdapter
- NetViewNTServerAdapter
- NNMAAdapter



(注) NNM アダプタは HP OpenView Network Node Manager Adapter とも呼ばれます。

- SPECTRUMAdapter
- SystemWalkerAdapter

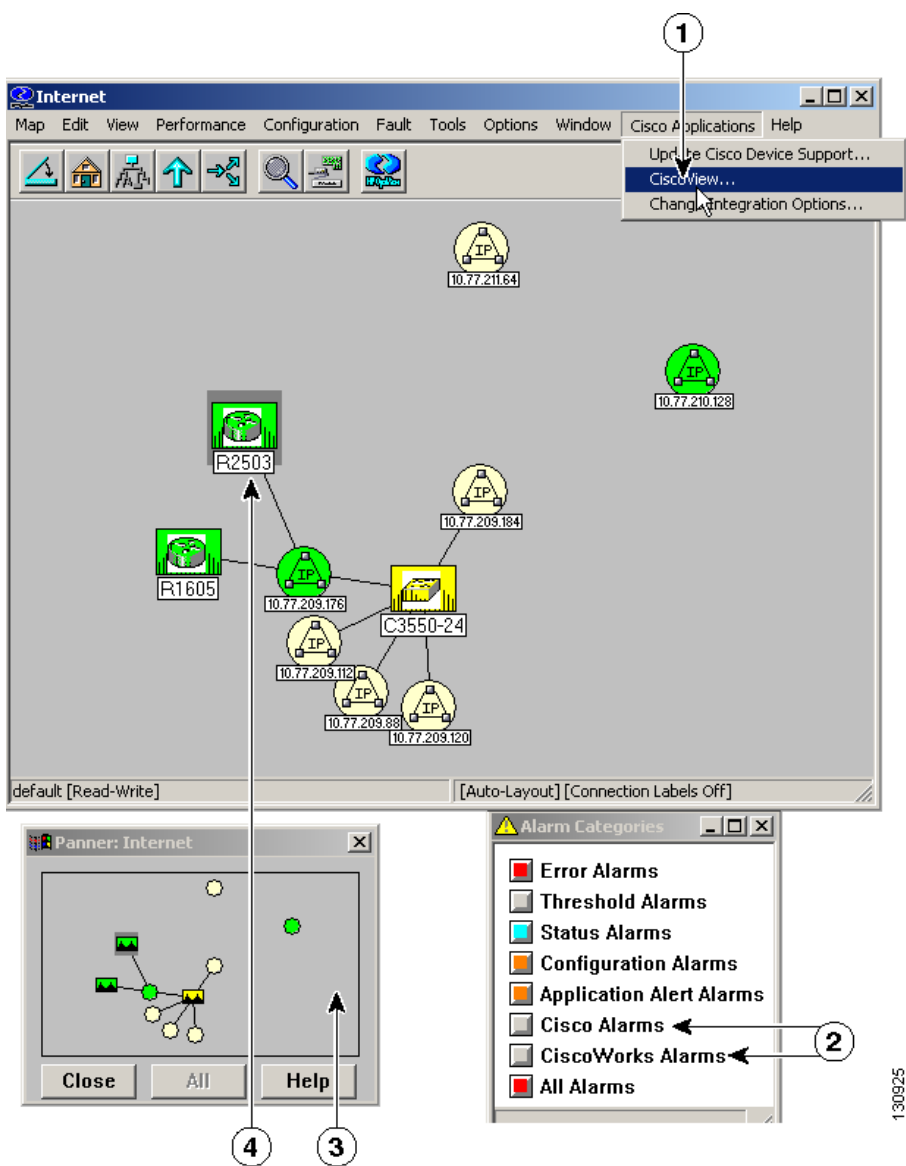
また、ファイルから、またはリモート FTP サーバから新しいアダプタを入手して、既存のアダプタのリストに追加することもできます。詳細については、[NMS の更新](#)を参照してください。

ステップ 6 [Integrate] をクリックして、選択した NMS に Cisco Prime アプリケーションを統合します。

統合には時間がかかる場合があります。統合が正常に完了するまでお待ちください。

図 3-1 に、CiscoView との統合後の HPOV を示します。

図 3-1 CiscoView との統合後の HPOV



- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | Cisco Prime アプリケーション (CiscoView) |
| 2 | 統合後に表示される Cisco Alarms |
| 3 | HPOV Panner |
| 4 | シスコのアイコン |

130925

NMS の更新

Cisco Prime アプリケーションを統合するネットワーク管理システム (NMS) を更新または変更できます。たとえば、HP Network Node Manager 6.4 から 7.0 にアップグレードすることや、別の NMS を使用することができます。

Cisco Prime アプリケーションとの統合を維持するには、新しいアダプタ スクリプトを取得する必要があります。アダプタ スクリプトによって、NMIDB から NMS にアイコン、MIB、およびアプリケーションが統合されます。

アダプタ スクリプトを実行して Cisco Prime アプリケーションを統合する前に、そのスクリプトに NMS を使用できることを確認します。

NMS をアップデートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Available Adapters] リストからアダプタ スクリプトを選択します。

Integration Utility に付属の NMS アダプタのリストからアダプタ スクリプトを選択することも、NMS ベンダーによって提供されたアダプタ スクリプトを使用することもできます。

[Available Adapters] リストからスクリプトを選択する場合、スクリプトの説明が [Adapter Description] ダイアログ ボックスに表示されます。

アダプタ スクリプトをリストに追加するには、次の手順を実行します。

a. [Add.] をクリックします。

[Get New Adapter] ダイアログボックスが表示されます。

b. 表 3-3 から次のオプションのいずれかを選択します。

表 3-3 アダプタ スクリプトをインストールするためのオプション

オプション	目的	入力
File	ローカル マシン上のファイルからアダプタ スクリプトをインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> フル ディレクトリ パスおよびアダプタ スクリプト ファイル名を入力します。例： <ul style="list-style-type: none"> Windows の場合は、次のように入力します。 <code>C:\%temp%\adapter.XXX</code> <i>adapter</i> は NMS アダプタの名前で、<i>xxx</i> はアダプタのファイル名拡張子です。 UNIX の場合は、次のように入力します。 <code>/tmp/adapter.XXX</code> <i>adapter</i> は NMS アダプタの名前で、<i>xxx</i> はアダプタのファイル名拡張子です。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> [Browse] をクリックし、アダプタ スクリプト ファイルを検索します。
FTP	別のシステムからアダプタ スクリプトをインストールします。	<p>次のデバイスのログイン情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム名 ユーザ名 ユーザ パスワード フル ディレクトリ パスおよびアダプタ スクリプト ファイル名。 <p>たとえば、<code>/tmp/adapter.xxx</code> と入力します。 <i>adapter</i> は NMS アダプタの名前で、<i>xxx</i> はアダプタのファイル名拡張子です。</p>

- c. 新しいアダプタ スクリプトが含まれるディレクトリに移動し、ファイルを選択します。
- d. [OK] をクリックします。
スクリプトが [Available Adapters] リストに追加されます。

ステップ 2 [Integrate] をクリックして、選択したスクリプトを実行します。

アダプタ スクリプトによって、アイコン、MIB、およびアプリケーションが NMS に統合されます。

Integration Utility のトラブルシューティング

「トラブルシューティング情報」(表 3-4) の情報を使用して、Integration Utility の使用中に発生したエラーやその他の問題を解決します。

表 3-4 **トラブルシューティング情報**

症状	考えられる原因	解決策
NMIC を起動すると、NMIDB の抽出中にエラー メッセージが表示される。	統合後に、Change Integration Options を実行すると、システムから NMIDB が抽出されます。NMIDB を抽出するための十分なディスク容量がない場合、抽出が失敗します。	空きディスク容量を増やして、Change Integration Options を再起動します。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows の場合、ディスクに 190 MB 以上の空き容量が必要です。 • 他のファイルやオペレーティング システムの場合、ディスクに 25 MB 以上の空き容量が必要です。
HP Network Node Manager 用のアダプタ 1.7 でシスコ デバイスのアイコンを表示できない。	これは、統合に使用された NMIDB に特定のデバイス アイコン情報がない場合に発生します。	Change Integration Utility の GUI を使用して Cisco.com から最新の NMIDB を抽出し、統合を実行すると解決します。
統合後、トラップが正しく統合されない。	これは、適切な NMS Adapter が使用されていない場合に発生します。	特定の NMS に対応した最新のアダプタ バージョンを Cisco.com からダウンロードします。



INDEX

C

Cisco Prime アプリケーション

NMS への統合 [3-5](#)

サードパーティ NMS との統合

同じマシン上の NMS と Cisco Prime [1-2](#)

異なるマシン上の NMS と Cisco Prime [1-2](#)

I

Integration Utility

UNIX での開始 [3-2](#)

Windows での開始 [3-2](#)

概要 [1-1](#)

コマンドライン オプション [2-2, 3-2](#)

トラブルシューティング [3-9](#)

Integration Utility のインストール [2-1](#)

インストール中のユーザ入力 [2-3](#)

ソフトウェアの要件 [2-1](#)

ハードウェアの要件 [2-1](#)

N

NMIDB

ダウンロード [3-3](#)

NMIDB のダウンロード [3-3](#)

NMS

アップグレード [3-8](#)

NMS バージョンの更新 [3-8](#)

U

UNIX

Integration Utility の開始 [3-2](#)

W

Windows

Integration Utility の開始 [3-2](#)

け

警告、重要 [iv](#)

こ

このマニュアル内の表記法 [iii](#)

このマニュアルの対象読者 [iii](#)

さ

サポートされる NMS [2-2](#)

ち

注意

重要 [iv](#)

て

データ バンドルのダウンロード [3-3](#)

ね

ネットワーク管理統合データ バンドル（「NMIDB」を参照） [3-3](#)

へ

ヘルプ

オンライン マニュアル **v**

ま

マニュアル **iv**

この製品に関連する **v**

対象読者 **iii**

追加オンライン **v**

表記法 **iii**